

## 学位論文審査の概要

博士の専攻分野の名称 博士（医学） 氏名 岩崎 素之

主査 教授 松居 喜郎  
審査担当者 副査 教授 石田 晋  
副査 教授 寶金 清博  
副査 教授 武蔵 学  
副査 教授 生駒 一憲

### 学位論文題名

#### **Clinical Characteristics and Outcomes in Carotid Endarterectomy for Internal Carotid Artery Stenosis in Japanese Population: A 10-year Microsurgical Experience**

（日本における内頸動脈狭窄症に対する頸動脈内膜剥離術の臨床的特徴と長期予後：10年の顕微鏡下手術経験より）

近年、増加している頸部内頸動脈狭窄症に対し、欧米における多施設共同研究により、頸動脈内膜剥離術(carotid endarterectomy; CEA)が70-99%狭窄という高度の頸部内頸動脈狭窄症における脳梗塞の発症や再発を、症候性および無症候性患者において有意に抑制することが明らかとされているが、今回、われわれはretrospective studyにより日本人におけるその有効性について検討した。

他に内科治療群との比較が無いため真の意味でのCEAの有効性を証明したことにはならないのではないかと指摘もあった。

術前の既往の評価法については、心筋梗塞および狭心症の定義について治療歴や診断されているものについてのみ既往ありと判断していたが、無症候性に関してはpick upできておらず、潜在的に保有率もっと高いものと推定された点が指摘された。また、高血圧、糖尿病、脂質異常症についても、このコントロールが良好か不良かも結果に影響したと思われる点が指摘された。

治療評価という点において、CEA後平均38.7か月間の脳血管eventは8.5%という結果で欧米のNASCETでの二年間の累積卒中率9%、あるいはECSTのCEA後3年間の虚血発症2.8%と比較して問題の無いレベルであったことを証明できたが、直接の比較が理解しがたかった。年単位の卒中発生率をおおよそ計算しても、結果が問題ないことをよりわかりやすく示された。

この論文は、日本人に限る研究で比較的多数の症例を有した初の長期予後について詳細に検討した研究という点で高く評価され、今後、内科治療群またはcarotid artery stentingとの比較研究などへの発展が期待される。

審査員一同は、これらの成果を高く評価し、大学院課程における研鑽や取得単位なども併せ申請者が博士の学位を受けるのに十分な資格を有するものと判定した。